

# I 調査結果概要

## 県内中小企業の経営状況

県内中小企業の景況感は、足踏み状態にある。  
先行きについては、慎重さがみられる。

- 経営者の景況感D Iは、▲42.6と、前期比で3.0ポイント減少し、2期ぶりに悪化した。業種別では、製造業は4期連続で悪化し、非製造業は2期ぶりに悪化した。先行きD Iは、▲26.0と、前回調査比で0.1ポイント増加し、2期連続で改善した。
  - 売上げD Iは3期連続で改善し、資金繰りD Iは2期ぶりに改善した。
  - 採算D Iは3期ぶりに悪化した。
  - 設備投資の実施率は3期連続で増加した。
  - 来期については、採算D Iは当期D Iより改善し、売上げD I・資金繰りD Iは当期D Iより悪化する見通しである。
- また、設備投資実施率については当期実施率より減少する見通しとなっている。

注1) 数値については、小数点第2位を四捨五入して表記しているため、D Iを算出すると±0.1ポイントの範囲で差異が生じることがある。

注2) 「前期」：令和元年7～9月期、「当期」：令和元年10～12月期、「来期(先行き)」：令和2年1～3月期

### 1 経営者の景況感と来期の見通しについて

自社業界の景況感D Iは▲42.6となり、2期ぶりに悪化した。前期比で3.0ポイント減少し、前年同期比では13.6ポイント減少した。

業種別にみると、製造業(▲47.7)は4期連続で悪化し、非製造業(▲38.7)は2期ぶりに悪化した。

#### <景況感D Iの推移>

	当期 (R1.10-12)	前期 (R1.7-9)	前年同期 (H30.10-12)
全体	▲42.6	▲39.6	▲29.0
製造業	▲47.7	▲45.8	▲25.0
非製造業	▲38.7	▲34.7	▲32.2

先行きについては、「良い方向に向かう」とみる企業は5.9%（前回調査(R1.7-9月)比▲0.6ポイント）、「悪い方向に向かう」とみる企業は31.9%（前回調査比▲0.7ポイント）だった。

先行きD Iは▲26.0（前回調査比+0.1ポイント）と、2期連続で改善した。

#### <来期の見通し>

	良い方向に向かう	悪い方向に向かう	先行きD I (R2.1-3)
全体	5.9%	31.9%	▲26.0
製造業	6.1%	33.3%	▲27.2
非製造業	5.7%	30.8%	▲25.1

## 2 売上げについて

売上げD Iは▲17.9（前期比+4.8）となり、3期連続で改善した。来期は悪化する見通し。

業種別にみると、製造業、非製造業ともに3期連続で改善した。

来期については、製造業、非製造業ともに当期の売上げD Iより悪化する見通しである。

### 〈売上げD Iの推移〉

	当 期 (R1.10-12)	前 期 (R1.7-9)	前年同期 (H30.10-12)	来期見通し (R2.1-3)
全 体	▲17.9	▲22.7	▲7.4	▲23.6
製 造 業	▲20.3	▲23.5	1.2	▲25.4
非製造業	▲16.1	▲22.1	▲14.3	▲22.1

## 3 資金繰りについて

資金繰りD Iは▲18.3（前期比+1.5）となり、2期ぶりに改善した。来期は悪化する見通し。

業種別にみると、製造業は2期ぶりに改善し、非製造業は3期連続で改善した。

来期については、製造業、非製造業ともに当期の資金繰りD Iより悪化する見通しである。

### 〈資金繰りD Iの推移〉

	当 期 (R1.10-12)	前 期 (R1.7-9)	前年同期 (H30.10-12)	来期見通し (R2.1-3)
全 体	▲18.3	▲19.9	▲12.7	▲21.0
製 造 業	▲21.2	▲23.4	▲8.7	▲22.2
非製造業	▲16.1	▲17.0	▲15.8	▲20.1

## 4 採算について

採算D Iは▲27.9（前期比▲0.7）となり、3期ぶりに悪化した。来期は改善する見通し。

業種別にみると、製造業は3期ぶりに悪化し、非製造業は2期連続で改善した。

来期については、製造業は当期の採算D Iより改善し、非製造業は悪化する見通しである。

### 〈採算D Iの推移〉

	当 期 (R1.10-12)	前 期 (R1.7-9)	前年同期 (H30.10-12)	来期見通し (R2.1-3)
全 体	▲27.9	▲27.2	▲18.4	▲26.1
製 造 業	▲31.1	▲28.9	▲12.1	▲26.1
非製造業	▲25.5	▲25.9	▲23.5	▲26.2

## 5 設備投資について

実施率は23.0%となり、3期連続で増加した。来期は減少する見通し。

業種別にみると、製造業は3期ぶりに減少し、非製造業は2期連続で増加した。

来期については、製造業、非製造業ともに減少する見通しである。

### 〈設備投資の実施率〉

	当 期 (R1.10-12)	前 期 (R1.7-9)	前年同期 (H30.10-12)	来期見通し (R2.1-3)
全 体	23.0%	22.9%	23.1%	18.1%
製 造 業	25.5%	27.0%	28.7%	22.9%
非製造業	21.1%	19.6%	18.7%	14.5%

## 6 ヒアリング調査の概況（詳しくはP14以降をご覧ください）

### 【現在の景況感】

- （一般機械器具）・米中貿易摩擦の影響で受注が落ち込んでおり不況である。
- （輸送用機械器具）・新しい部品等の開発も減っており景況感は良くない。
- （電気機械器具）・半導体関連受注が回復するのは夏ごろになるとみている。
- （銑鉄鋳物）・米中貿易摩擦の影響で良くない状況だが、特に工作機械関係の景況感が悪い。
- （百貨店）・駆け込み需要の反動減に加えて台風による休業も響いており、良くない。
- （スーパー）・大半の商品が軽減税率対象であり影響は少なく、景況感は普通である。
- （建設業）・消費税率引上げ後も不動産の動きにはあまり影響がなく、住宅建設の景況感は普通である。

### 【売上げ・採算】

- （一般機械器具）・量産品の受注は減少傾向にあるが、付加価値の高い精密部品の売上げは堅調である。
- （電気機械器具）・中国向けの携帯部品受注が減少している。
- （金属製品）・海外向けの半導体受注の減少が顕著である。
- （プラスチック製品）・既存受注は横ばいであるが新規受注があり売上は増加している。
- （食料品製造）・売上が増加し生産性も向上したものの、人件費増加のため採算性は変わっていない。
- （百貨店）・衣料品が厳しいが、増税前の駆け込み需要として、宝飾品や化粧品等が売れた。
- （情報サービス業）・コスト増をカバーする売上が確保出来ており、採算性は維持できている。

### 【今後の見通し】

- （一般機械器具）・中国の景気回復もまだ見通せず、春までは厳しい状況が続くとみている。
- （電気機械器具）・現状が底であり、これ以上悪くなるとは想定していない。
- （銑鉄鋳物）・半導体関連が上向いてきており横ばいとみている。
- （百貨店）・増税後の買い控えからの戻りがあり、良い方向に向かうと思う。
- （旅行業）・第4四半期は例年観光需要が減少するが、前年同水準程度は確保できる見込み。
- （建設業）・民間工事の受注環境は不透明であり、工事採算は厳しさが増すものとみている。